



だざいふしせき 大宰府史跡

Kyushu Historical Museum Exhibition guide

1 大宰府史跡の成り立ち

奈良・平安時代、大宰府は律令国家における地方最大の官衙(役所)でした。この大宰府の重要施設は、現在の福岡県太宰府市を中心とした地域に史跡として残されています。大宰府政庁跡、水城跡、大野城跡、大宰府学校院跡、観世音寺境内および子院跡、筑前国分寺跡、国分瓦窯跡などであり、大宰府史跡と総称しています。

大正8年制定の「史蹟名勝天然紀念物保存法」によって、まず大宰府跡と水城跡が大正(1921)10年に、大野城跡が昭和7年(1932)に国指定史跡となりました。そして、戦後に制定された文化財保護法によって、昭和28年(1953)3月31日、大宰府跡、水城跡、大野城跡は、そろって国の特別史跡となっています。

このように、大宰府史跡の重要性は戦前より認識されてきましたが、昭和30年代後半に太宰府周辺

にも及んだ大規模開発によって、消滅の危機を迎えます。そして昭和43年、福岡県教育委員会は、大宰府史跡を保存するために発掘調査を開始しました。発掘調査によって史跡の重要性が明らかとなり、昭和45年9月21日、特別史跡大宰府跡の追加指定をはじめ、大宰府学校院跡、観世音寺境内および子院跡が新たに指定され、指定面積は約120haに拡がりました。そして今日まで、緑豊かな山々に囲まれた大宰府史跡とその景観も保存されてきたのです。

2 大宰府史跡の概要

大宰府史跡の第1次調査は、大宰府政庁跡の南門・中門地区より開始されました。その後、発掘調査は、昭和47年に設置された九州歴史資料館によって今日まで続けられています。ここでは、発掘調査によって明らかになった各史跡の概要について紹介します。



大宰府史跡 中心部全景



昭和40年頃の大宰府政庁跡



大宰府史跡の調査
(大宰府政庁跡 中門地区)

大宰府政庁跡（特別史跡大宰府跡） 福岡県太宰府市

古代の役所、大宰府の中心となる施設です。発掘調査では、奈良時代の始め頃に、平城宮の建物をも倣した左右対称となる、礎石建物に整備されたことが分っています。また、現在の地表に残る礎石建物は、天慶4年（941）の藤原純友の乱による焼失後に再建されたことが分かりました。現在は史跡公園として整備され、市民の憩いの場となっています。

特別史跡水城跡 福岡県太宰府市・大野城市・春日市

663年の白村江の戦い直後、天智天皇3年（664）の築城の記録が残る、大宰府の防衛施設です。平野を遮断した約1.2kmの土塁の博多側には、約60m幅の外濠が確認されています。土塁の下に埋められた木樋（導水管）によって、太宰府側より水を流して外濠に貯えたと考えられています。

特別史跡大野城跡 福岡県太宰府市・大野城市・宇美町

水城築城の翌年、天智天皇4年（665）の築城記事が残る古代山城です。百濟官人の指導の下に造られた朝鮮式山城で、谷部を石垣で埋め、尾根上に土塁を築いて約8kmを取り囲んでいます。城内に入るための城門や、礎石建物の倉庫も多数見つかります。また大宰府の南には、特別史跡基肄城跡（福岡県筑紫野市・佐賀県基山町）があります。

史跡観世音寺境内および子院跡 福岡県太宰府市

母齊明天皇追善のため、天智天皇によって発願され、天平18年（746）の完成と伝えられています。天平宝字5年（761）には戒壇が設置され、西海道随一の寺となり、「府の大寺」と呼ばれました。講堂や金堂は江戸期の再建で、境内には五重塔の礎石や日本最古の梵鐘もあります。子院は、観世音寺の周辺に置かれた49の寺のことです。また、観世音寺の西側には「府学校」と呼ばれた、史跡大宰府学校院跡があります。

現在、この大宰府史跡を後世に伝えるため、市民と史跡に係る各自治体が連携しながら活用を進めています。

（学芸調査室 杉原敏之）



大宰府政庁跡



水城跡と大野城跡



観世音寺



編集 発行：平成23年2月1日

九州歴史資料館
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>